資料４－１

(仮)足立区運動・スポーツ推進計画

素案

**はじめに**

**目　次**

計画のあらまし

[第１章　共通理念 1](#_Toc22845308)

[**１　人生100年時代を生き抜くために** 1](#_Toc22845309)

[**２　文化・読書・スポーツの可能性** 2](#_Toc22845310)

[第２章　計画の考え方 4](#_Toc22845311)

[**１　本計画における運動・スポーツの定義** 4](#_Toc22845312)

[**２　計画の目指す将来の姿** 4](#_Toc22845313)

[**３　計画の位置づけと計画期間** 4](#_Toc22845314)

[**４　計画推進のための体制** 6](#_Toc22845315)

[第３章　現状と課題 11](#_Toc22845316)

[**１　現状** 11](#_Toc22845317)

[**２　課題と要因** 14](#_Toc22845318)

[第４章　施策展開 20](#_Toc22845319)

[**１　施策体系** 20](#_Toc22845320)

[**２　重点項目** 22](#_Toc22845321)

[**３　施策と事業** 24](#_Toc22845322)

**第５章　資料編**

**１　事業一覧（令和２年度）**

**２　関連する国等の動向**

**３　計画策定の経過**

**４　計画策定に向けての調査事項**

# 計画のあらまし

**目指す将来の姿**

**課　題**

**要　因**

**共通理念　 楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる**

①運動・スポーツに関心の薄い区民に、運動・スポーツの楽しさが伝わっていない

②運動・スポーツに関心をもっている区民を、実際の行動へとつなげられていない

年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが運動・スポーツを身近なところで気軽に楽しめる環境が整っている

運動・スポーツを通して、区民が自ら心身の健康の保持・増進を図り、心豊かに日々を過ごしている

運動・スポーツに親しむことで、区民が自己肯定感や他者への理解を深め、人と人とがつながり、地域のコミュニティが醸成されている

**区民のスポーツ実施率が低い**

●子どもの年齢が上がるにつれ、スポーツ実施率が下がっている

●成人のスポーツ実施率が低い

●障がい者のスポーツ実施率が低い

③新しく活動したい区民に、既存のスポ－ツ施設を利用する機会が、充分に提供できていない

④身近な場所（自宅、公園、総合型地域クラブなど）が充分に活用されていない

⑤運動・スポーツをささえる人材が不足している

**施策１-３　【←要因①②】**

**運動・スポーツに関する情報の効果的な発信**

**p.27**

**施策３-２　【←要因⑤】**

**運動・スポーツをささえる**

**人材の育成とマッチング**

**p.34**

**施策３-１　【←要因⑤】**

**運動・スポーツをささえる**

**組織への支援**

**p.33**

**施策２-１　【←要因②③④】**

**身近な場所における**

**運動・スポーツの推進**

**p.29**

**施策２-２　【←要因①②④】**

**協働・協創による他分野との**

**連携のしくみづくり**

**p.31**

**柱３**

**運動・スポーツをささえる**

**人材の育成と活躍の場の創出**

**柱２**

**運動・スポーツの楽しみを**

**深める場の提供**

**柱１**

**運動・スポーツを気軽に**

**楽しむための機会づくり**

**施策１-１　【←要因①②】**

**子ども・成人・高齢者・**

**障がい者が運動・スポーツを**

**楽しむきっかけづくり**

**p.24**

**施策１-２　【←要因①②】**

**だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実**

**p.26**

**施策の柱**

**施　策**

あ

# 第１章　共通理念

## **１　人生100年時代を生き抜くために**

英国のリンダ・グラットン教授らによれば「2007年に日本で生まれた子どもの半分は、107年以上生きる」※[[1]](#footnote-2)とされるなど、日本人の寿命はこれまで以上に延伸することが予想され、国も「人生100年時代構想会議」を立ち上げ準備に入りました。

長くなった一生をできる限り健康で、心豊かに生き抜くことができる地域社会が求められるのは当然のことですが、持続可能な自治体運営の観点からも、その実現は喫緊の課題です。そこで当区では、健康な心と体を基本としつつ、生きがいや充実感をもって日々を心豊かに生きていくための不可欠な要素として、以下の6点を掲げました。

１　自分のやりたいことに取り組もうとする意欲

２　何歳になっても知らないことを知り、学ぼうとする態度

３　新しいことにチャレンジし、始めようとする好奇心

４　異なる考え方や価値観を尊重しようとする姿勢

５　まわりの人の役に立とうとする気持ち

６　地域とのつながりを持とうという思い

しかしながら、こうした要素を必ずしも皆が生まれながら持ち合わせているわけではありません。日常の生活を通じて各人が育み、磨き上げることも必要となります。そのきっかけとなりうるのが、文化・読書・スポーツの3分野と考え、計画の一体的な策定に着手しました。図書館・体育館等が一体となった複合施設が多数存在する当区にとって、分野横断的な発想は、施設のさらなる有効活用を通じて、施策の一層の充実につながります。

北千住が住みたい街にランクインするなど、徐々に当区のイメージは変わりつつあり、子育て世代を中心に人口も現在、増加傾向にあります。今後はさらに、身近なところで文化・読書・スポーツに親しむ機会を設け、それらを楽しむ区民を増やし、元気でいきいきとした地域社会の実現を目指します。足立区に住んでいれば心身ともに自ずと健康で心豊かに生活できる。だからこそ「住みたい」「住み続けたい」と誰もが思う持続可能な自治体へと、着実に歩みを進めていきます。

## **２　文化・読書・スポーツの可能性**

### **（１）「楽しさ」との出会いが原点**

日々の生活では、仕事・子育て・介護等、様々な場面でストレスを感じることも多々ありますが、「楽しい」と思える「何か」を見つけることで、気分を変えたり、困難を乗り越えたりすることができるのではないか？その「何か」に出会える最良のきっかけとなるよう、文化・読書・スポーツの計画策定にあたり、「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」を共通理念に掲げ、相互の関連を意識しつつ施策を組み立てていきます。

「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」

■図表１　共通理念の検討プロセス

第５回推進会議

(平成30年８月)

第４回までの議論を踏まえ、共通理念素案「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」を策定

第４回推進会議

(平成30年７月)

第３回の議論を踏まえ、「人生100年時代を心豊かに生きるための６つの要素」について意見交換を実施

第３回推進会議

(平成30年６月)

第２回の議論を踏まえ、人生100年時代を心豊かに生きるための「25のキーワード」「６つの人物像」について意見交換を実施

第２回推進会議

(平成30年５月)

「人生100年時代を豊かに生きるひと」について意見交換を実施

### **（２）共通理念は心豊かに生きるためのキーワード**

理念にこめた心豊かに生きるためのキーワードは次の３つです。

１　楽しさに気づく

２　楽しさを深める

３　楽しさを広げる

「楽しさに気づく」が全ての始まりです。文化・読書・スポーツに親しむきっかけは、それぞれの体験を通じて味わう喜びや感動、楽しいと思う感情だからです。

その感情が徐々に高まってくると、次にそこから一歩踏み出して、文化・読書・スポーツ活動に自ら主体的にかかわろうとする思いが生まれます。感情が深まることが能動的な活動につながります。

そして、より積極的な活動を通じて多くの人々と楽しさを共有し、楽しさの輪が「広がる」ことで、さらに各人に新たな気づきが生まれます。

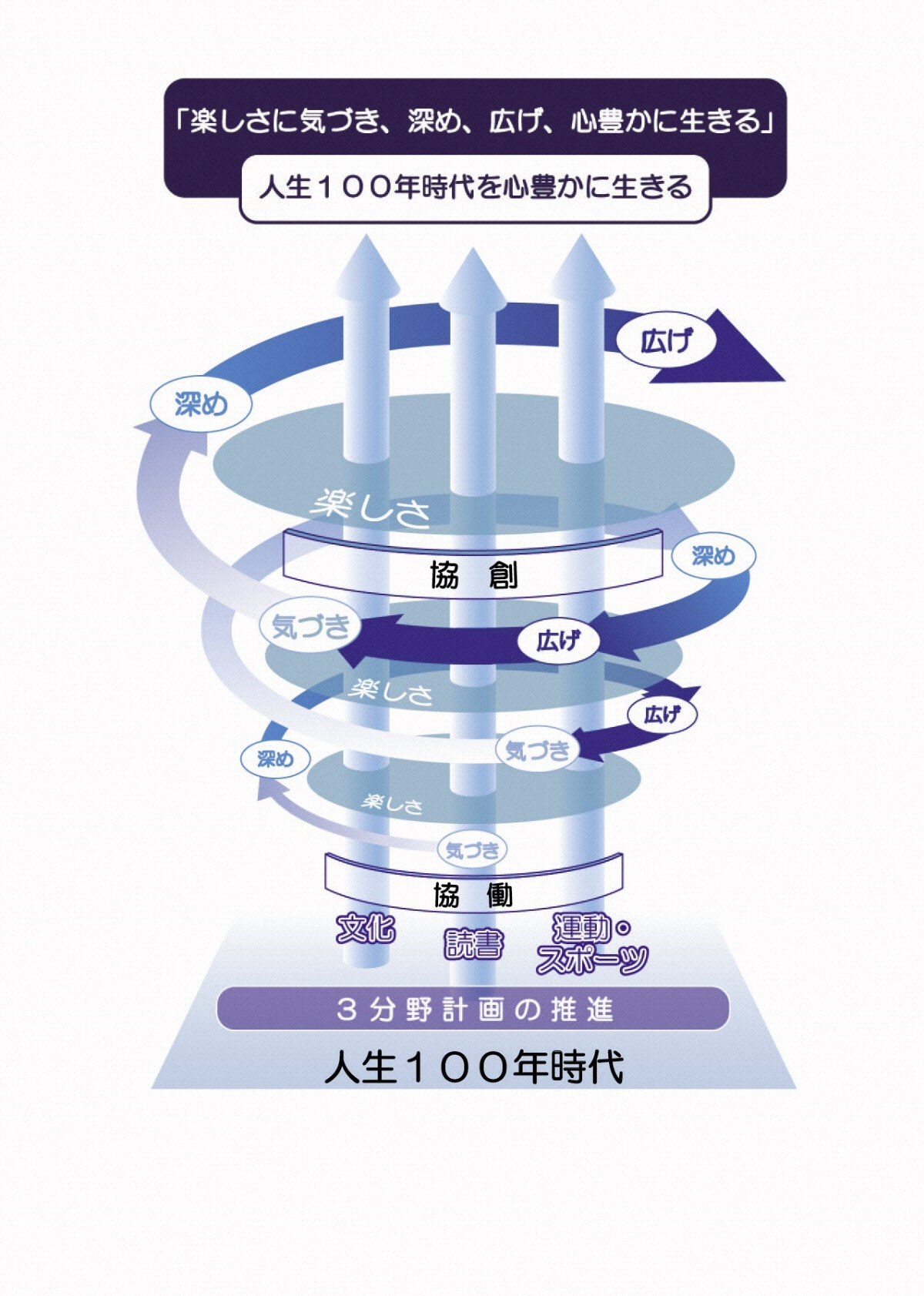
本計画の策定を通じ、そのようなスパイラルを地域に巻きおこせるような施策展開を目指します。

### **（３）協働・協創※[[2]](#footnote-3)による文化・読書・スポーツの推進**

文化・読書・スポーツの３分野を通じて区民一人ひとりの心豊かな生活を実現するためには、単に区のみが主体的に行動するばかりでなく、学校や関係団体、事業者などが当事者意識を持って、様々な形で連携していくことが不可欠です。

区は多様な主体による活動の状況を把握しつつ、各活動をゆるやかにつなぐコーディネーター等の役割も担うことで、協働・協創による文化・読書・スポーツ施策の推進を図っていきます。

　■図表２　共通理念のイメージ



# **第２章　計画の考え方**

## **１　本計画における運動・スポーツの定義**

本計画では、スポーツをより身近に感じて、接することができるよう、ルールに基づいて勝敗や記録を競うといった競技スポーツだけでなく、健康増進のための軽い体操やウォーキングのほか、エレベーターを使わずに階段を使う、バス停１つ分を歩くなどの目的をもった身体活動を「運動・スポーツ」として広く捉えることとします。

## **２　計画の目指す将来の姿**

共通理念を踏まえ、運動・スポーツ分野において目指すべき姿を次のように定めます。

○　年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが運動・スポーツを身近なところで気軽に楽しめる環境が整っている

○　運動・スポーツを通して、区民が自ら心身の健康の保持・増進を図り、心豊かに日々を過ごしている

○　運動・スポーツに親しむことで、区民が自己肯定感や他者への理解を深め、人と人とがつながり、地域のコミュニティが醸成されている

## **３　計画の位置づけと計画期間**

### **（１）計画の位置づけ**

本計画は、区の最上位計画である足立区基本構想・基本計画を踏まえ、足立区文化芸術推進計画・足立区読書活動推進計画と一体的な取り組みを行っていきます。

■図表３　計画の位置づけ

足立区基本構想

足立区基本計画

施策群③　生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を実践できる仕組みをつくる

足立区

教育大綱

**理念を反映**

　　　・足立区高齢者保健福祉計画

　　　・足立区障がい者計画

　　　・健康あだち２１行動計画

　　　・足立区パークイノベーション推進計画

　　　・足立区教育振興ビジョン

関連計画

（区）

　　 スポーツ推進総合計画

都

**(仮) 足立区**

**運動・スポーツ**

**推進計画**

(仮) 足立区

文化芸術

推進計画

(仮) 足立区

読書活動

推進計画

共　通　理　念

　　 第２期スポーツ基本計画

国

**連　携**

**整　合**

### **（２）計画期間**

本計画では令和２年度から令和７年度の６年間を計画期間として、区民の運動・スポーツ活動の推進に取り組んでいきます。なお、計画の中間年にあたる令和４年度に事業成果と進捗状況を検証した上で、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

■図表４　計画期間

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ |
| 足立区基本構想　※30年後を見据えて作成 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 足立区基本計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区運動・スポーツ推進計画 |  |  | 中間検証 |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区文化芸術推進計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区読書活動推進計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |

## **４　計画推進のための体制**

### **（１）推進主体と役割**

計画の推進にあたっては、ライフステージごとの運動・スポーツとのかかわりを踏まえつつ、スポーツ関係団体等を中心として、学校、民間団体・事業者等が各々の役割を担うとともに、協働・協創による取り組みを進めていく必要があります。各主体の役割の考え方は以下のとおりです。

**区**

　○　区民のだれもが運動・スポーツを楽しむことができるよう、年齢や性別、障がいの有無等にかかわらず、運動・スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことのできる機会の提供や、運動・スポーツに取り組める場づくり、運動・スポーツをささえる人材の育成に努めます。

　○　計画の推進にあたり、スポーツ関係団体やスポーツ施設の指定管理者など運動・スポーツにかかわる様々な主体と連携し、区の目指すべき姿やその実現のために必要な施策について方向性を共有することで、一体的に運動・スポーツ活動を推進します。

**区民**

　○　年齢や性別、障がいの有無等にかかわらず運動・スポーツを楽しむ中で、心身の健康の保持・増進を図り、人や地域との交流を深め、心豊かに日々を過ごすことが期待されます。

**公益財団法人足立区体育協会**

　○　運動・スポーツに取り組む区民の競技力向上を図るとともに、気軽に楽しめる運動・スポーツの場の提供、指導者の育成など、生涯スポーツ活動の更なる発展に努めます。

**スポーツ推進委員**

　○　区民の運動・スポーツに対するニーズを把握し、地域における様々な運動・スポーツ活動に協力、指導・助言を行い、普及・啓発に努めます。

　○　様々な主体との連絡調整を行い、スポーツを通じた絆づくりを実践するコーディネーターとしての役割を担います。

**総合型地域クラブ**

　○　目的やレベル、年齢を問わず、だれもが日常的に運動・スポーツできる場として、各地域の施設を拠点に、区民が中心となり自主的・主体的に、運動・スポーツの機会を提供していきます。

**学校・幼稚園・保育園**

　○　子どもの運動・スポーツを体験する機会を充実し、身体を動かす楽しみを教えることで、運動・スポーツの習慣化、体力の向上を図っていきます。

　○　体育館や校庭等の学校施設は、放課後や休日など、学校運営に支障のない範囲で、区民が運動・スポーツを身近に楽しめる場として機能する役割を果たします。

**民間団体・事業者等**

　○　区民の運動・スポーツへの多様なニーズに応えるサービスを提供することが期待されます。

　○　様々な主体と連携しながら、運動・スポーツに関する専門的なノウハウやアイディアを活かした活動を展開することで、地域の活性化に寄与することが期待されます。

■図表５　推進主体とライフステージ

図表が入ります

### **（２）計画の評価**

各施策の着実な推進のためには、進捗状況の評価と必要に応じた施策の改善が必要です。各施策の進行管理については、ＰＤＣＡサイクル、すなわちＰｌａｎ（計画）－Ｄｏ（実行）－Ｃｈｅｃｋ（検証）－Ａｃｔｉｏｎ（改善）のマネジメントサイクルを用い、毎年度事業のチェックと改善を行って、着実な事業展開を図ります。

そのため、足立区文化芸術推進計画・足立区読書活動推進計画・足立区運動・スポーツ推進計画を一体的に管理・評価する組織として「（仮）文化・読書・スポーツ推進委員会」を設置し、数値目標や事業の取組実績に基づき、本計画の推進と進行管理の徹底を図ります。

■図表６　ＰＤＣＡサイクル

**Ｐｌａｎ（計画）**

**PDCAサイクル**

**Ｃｈｅｃｋ（検証）**

**Ａｃｔｉｏｎ（改善）**

**Ｄｏ（実行）**

**(仮)文化・読書・スポーツ推進委員会**

**スポーツ関係団体について**

**◆　公益財団法人足立体育協会とは**

　　・　足立区内において、体育、スポーツ、レクリエーションの振興を図り、区民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活の形成に寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献することを目的として、昭和23年（1948年）発足された組織です。

　　・　スポーツ少年団や競技・レクリエーション団体など、36種の団体が加盟しています（2019年現在）。

　　・　区民が参加できる競技スポーツの大会や、スポーツイベントの実施、指導者育成などを実施しています。

**◆　公益財団法人足立体育協会とは**

　　・　足立区の生涯スポーツの振興、区民の健康体力づくり等に努める事を目標として、法律に基づき、区から委嘱を受けた非常勤公務員です。地域の推薦により、現在約80名のスポーツ推進委員が活動しています。

　　・　各地域の要請に応じて、以下のような取り組みを行っています。

　　　　　1　“健康”体力測定の実施

　　　　　2　地域スポーツ事業の運営サポート

　　　　　3　ニュースポーツ（ビーチボールバレー・ファミリーテニス・ファミリーターゲットボール・フラッグ鬼ごっこ・ドッヂビー・キンボール）の普及

　　　　　4　学校開放の運営調整（学校施設開放管理運営委員会）

　　　　　5　総合型地域クラブの運営サポート

　　　　その他、行政と地域のパイプ役として区のスポーツ振興を支えています。

**◆　総合型地域クラブとは**

　　・　子どもから高齢者まで、身近な施設で複数のスポーツが楽しめる会員制クラブで、全国的には総合型地域スポーツクラブと呼ばれています。

　　・　足立区では、スポーツだけでなく、太鼓や英会話といった文化活動のプログラムも提供していることから、「総合型地域クラブ」という名称で親しまれ、現在23区内最多となる９つのクラブが設立されています。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| クラブ名 | 地区 | 主なプログラム |
| ＫＩＴクラブ21 | 古千谷・入谷・舎人地区 | 柔道  健康体操 |
| ＮＰＯ法人ＡＳＣＣ | 綾瀬地区 | 硬式テニス  グランドゴルフ |
| Ｕ＆Ｕクラブ | 梅島・梅田地区 | ふれあいトランポリン  レベルアップバレーボール |
| 興本倶楽部 | 興本地区 | トランポリン  ノルディックウォーキング |
| 千住ウェスト | 千住西地区 | バドミントン  ヨガ・ピラティス |
| ＪＯＴＯクラブ | 千住常東地区 | スポーツウェルネス吹き矢  ファミリーテニス |
| ＳＵＫ２クラブ | 島根・梅島・小右衛門・栗原地区 | バスケットボール  親子フットサル |
| ＮＡＣＫクラブ | 中央地区 | コーディネーショントレーニング  太極拳 |
| ＳＳＫクラブ | 鹿浜地区 | ビーチボールバレー  ファミリーテニス |

# **第３章　現状と課題**

## **１　現状**

**（１）区のスポーツ施設について**

■図表７　区のスポーツ施設の概要

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **施設名称** | **所在地** | **施設概要** |
| **➊総合スポーツ**  **センター** | 東保木間2-27-1 | 大体育室、小体育室、剣道場、柔道場、  アーチェリー場、エアライフル場、  トレーニングルーム、テニスコート、  多目的広場、屋外プール |
| **➋平野運動場** | 平野2-12-1 | テニスコート、軟式野球場、  ゲートボール場 |
| **➌スイムスポーツ**  **センター** | 西保木間  4-10-1 | 一般用プール、幼児用プール、体育館、小体育室、トレーニングルーム |
| **➍千住温水プール** | 千住3-30  千寿本町小学校内 | 一般用プール、幼児用プール |
| **➎東綾瀬公園**  **温水プール** | 東綾瀬3-4-1 | 一般用プール、幼児用プール  屋外プール |
| **地域体育館** | 地域学習  センター内  （９か所） | ➏佐野地域体育館、➐花畑地域体育館、  ➑伊興地域体育館、➒鹿浜地域体育館、  ➓江北地域体育館、⓫興本地域体育館、  ⓬梅田地域体育館、⓭中央本町地域体育館、  ⓮東和地域体育館 |

■図表８　区内スポーツ施設マップ



以上のような施設のほか、野球場（12か所）、テニスコート（６か所）、運動場（６か所）が区内各所に配置されています。

**（２）区のこれまでの取り組み**

「第二次生涯スポーツ振興計画」（平成21年４月策定）

区では平成21年度より「第二次足立区生涯スポーツ振興計画」に基づき、いつでも、どこでも、だれもが、いつまでも運動・スポーツに親しめる「生涯スポーツ社会の創出」に向け、スポーツ実施率（週１回以上、運動・スポーツを実践する成人の割合）50％の達成を目標に掲げ、以下の５つの施策に取り組んできました。

|  |
| --- |
| 目標実現に向けた５つの施策 |
| １　子どもの体力向上に向けた施策 |
| ２　成人の健康体力づくりに向けた施策 |
| ３　「するスポーツ」「みるスポーツ」の施策 |
| ４　地域の人材育成に向けた施策 |
| ５　施設運営・整備・充実に向けた施策 |

ア　子どもの体力向上に向けた施策

体育協会によるジュニア世代の競技力向上や、放課後の学校を活用した「放課後子ども教室」、地域学習センターなどで実施している「親子ふれあい・幼児対象事業」などに取り組みました。しかし、平成30年度の東京都の調査では、区の小・中学生の学年ごとの体力合計点は、都の平均を下回る学年が多い状況となっています。

イ　成人の健康体力づくりに向けた施策

介護予防事業として、公園で行う軽運動教室（「パークで筋トレ」）やウォーキング教室などに取り組み、これらの活動は現在も着実に進展しています。一方で、青年期から壮年期にかけては運動・スポーツに取り組んでいる人が依然として少ない傾向にあります。

ウ　「するスポーツ」「みるスポーツ」の施策

スポーツカーニバルやタートルマラソン大会などのこれまでも行ってきたイベントに加え、障がい者のスポーツを推進するイベントや、トップアスリートを誘致した観戦会や体験教室などの新たな取り組みにも着手し、年間を通して様々なイベントを展開しています。

エ　地域の人材育成に向けた施策

スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成に取り組みましたが、講座の受講者や登録者数は減少傾向にあります。また、各スポーツ関係団体においても、スタッフ等の高齢化が進み、人材育成が進んでいない状況があります。

オ　施設運営・整備・充実に向けた事業

施設予約システムの一元化や適切な施設補修・改修等の整備を着実に進めてきましたが、各施設では設備の老朽化が進んでいます。

これらの施策の成果として、平成18年度に26.3％だったスポーツ実施率は平成30年度には35.9％まで上昇し、運動・スポーツに取り組む区民は増加したと言えます。しかし、数値目標としていたスポーツ実施率50％を達成するまでには至りませんでした。

■図表９　区民のスポーツ実施率の比較



出典：平成18年度足立区政に関する世論調査

足立区文化・読書・スポーツに関するアンケート調査（16歳以上向け調査）

## **２　課題と要因**

**（１）課題**

平成30年度に実施した「文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」等の結果、次のような課題が明らかになりました。

##### **ア　子どもの年齢が上がるにつれ、スポーツ実施率が下がっている。**

小・中学生アンケート調査※[[3]](#footnote-4)では、学校以外で１日に30分以上からだを動かす遊びなどを「ほとんどしない・全くしない」と回答した子どもは、小学５年生で14.8％、中学１年生で26.0％となっています。また、「学校の体育の授業が好き」という主旨の回答は、小学５年生で81.9％であったのに対して、中学１年生では69.7％と、年齢が上がるにつれ、運動をしない・好きでない子どもの割合が増加する傾向があり、特に女子において顕著に見られます。

■図表10　学年ごとの運動・スポーツの頻度及び体育の授業の好ききらいの比較



学校以外で１日に30分以上からだを動かす遊びなどをする頻度



小学５年生 　　中学１年生

学校の体育の授業の好ききらい

小学５年生 　　中学１年生

出典：足立区文化・読書・スポーツに関するアンケート調査（小・中学生アンケート調査）

##### **イ　成人のスポーツ実施率が低い。**

一般向けアンケート調査※[[4]](#footnote-5)では、週に１日以上運動・スポーツを行なった16歳以上の区民の割合は35.9％、成人に限定してみると34.1％と、東京都（56.3％）及び全国（51.5％）と比較して、足立区民のスポーツ実施率は低いことがわかります※[[5]](#footnote-6)。

■図表11　区民の運動・スポーツ実施頻度



出典：足立区文化・読書・スポーツに関するアンケート調査（16歳以上向け調査）

##### **ウ　障がい者のスポーツ実施率が低い。**

全国調査※[[6]](#footnote-7)では、過去１年間に、週１回以上スポーツ・レクリエーションを行った20歳以上の障がい者の割合は20.8％にとどまっており、スポーツ・レクリエーションを行っていない障がい者のうち、81.7％が「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」と回答しています。

区民のスポーツ実施率が全国より低いことから、同様に足立区における障がい者のスポーツ実施率も全国を下回ると推察されます。

■図表12　障がい者（20歳以上）の過去１年間にスポーツ・レクリエーションの実施頻度



出典：障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究報告書

**（２）要因**

前項のとおり、区民のスポーツ実施率が低いことが課題となっており、次のような要因が考えられます。

##### **ア　運動・スポーツに関心の薄い区民に、運動・スポーツの楽しさが伝わっていない。**

一般向けアンケート調査の結果では、運動・スポーツを実施していない理由について、特にスポーツ実施率が低い20～40歳代成人の25.8％は「運動・スポーツをすることが面倒くさい」、19.8％が「金銭的な余裕がない」と回答しています。

このことから、運動・スポーツに無関心な区民に対して、運動・スポーツを楽しそうと思ってもらえるような、効果的な企画を数多くそろえるとともに、広く周知していくことが必要です。

##### **イ　運動・スポーツに関心をもっている区民を、実際の行動へとつなげられていない。**

一般向けアンケート調査の結果では、「運動・スポーツを楽しむ人が増えるため重点的に進めた方が良いと思う施策は何か」との設問に対し、区民の48.5％が「初心者も参加しやすいイベントを充実させること」と回答しています。

このことから、運動・スポーツを始めてみたいと思った区民が、気軽に取り組めるような運動・スポーツの機会を提供していくとともに、その存在を広く周知していくことが必要です。

■図表13　運動・スポーツを楽しむ人が増えるため重点的に進めた方が良いと思う施策

出典：足立区文化・読書・スポーツに関するアンケート調査（16歳以上向け調査）

##### **ウ　新しく活動したい区民に、既存のスポ－ツ施設を利用する機会が充分に提供できていない。**

区内の公共スポーツ施設や、小中学校の体育館等の施設利用率は非常に高いものの、特定の団体等による利用が多くを占め、新たに活動したい区民の利用が困難な状況にあります。

そのため、こうした施設を、新たに活動したい区民も利用できるようにしていくことともに、民間のスポーツ施設など他の活動場所の利用を図っていく必要があります。

##### **エ　身近な場所（自宅、公園、総合型地域クラブなど）が充分に活用されていない。**

一般向けアンケート調査の結果では、区民の47.6％が運動・スポーツを行うきっかけは、「身近な場所で実施できること」と回答しています。

そのため今後は、自宅や職場などで気軽にできる運動・スポーツの紹介や、公園・広場、総合型地域クラブといった運動・スポーツのための身近な場所や地域コミュニティの充分な活用を通して、身近な場所で実施できる機会を広げていくことが必要です。

■図表14　運動・スポーツを実施するきっかけとして適切だと思うもの

出典：足立区文化・読書・スポーツに関するアンケート調査（16歳以上向け調査）

##### **オ　運動・スポーツをささえる人材が不足している。**

総合型地域クラブやスポーツ推進委員、競技団体等に行ったヒアリング調査では、組織を運営するスタッフや指導者として活動する経験者等の「活動の担い手の減少・高齢化が課題になっている」という意見が挙げられました。こうした状況は、組織の後継者不足等の問題にも直結しています。

一方で、指導者やボランティアの養成講座の受講者などからは「習得した技能や知識を十分に発揮できる場がない」といった意見が挙げられています。

また、平成30年度足立区政に関する世論調査では、区民の16.6％※[[7]](#footnote-8)が「スポーツボランティア活動をやってみたい」と回答しており、これは決して高い数値ではないものの、運動・スポーツをささえる活動に携わりたいと考える区民が、一定数いることがみてとれます。

このため、運動・スポーツをささえる人材を育成するとともに、必要とされる場へ効果的につなぎ、活躍できるしくみを強化していく必要があります。

■図表15　やってみたいスポーツボランティア



出典：平成30年度足立区政に関する世論調査

**第４章　施策展開**

## **１　施策体系**

**目指す将来の姿**

**施策の柱**

**共通理念　 楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる**

**柱１**

**運動・スポーツを気軽に**

**楽しむための機会づくり**

年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが運動・スポーツを身近なところで気軽に楽しめる環境が整っている

運動・スポーツを通して、区民が自ら心身の健康の保持・増進を図り、心豊かに日々を過ごしている

運動・スポーツに親しむことで、区民が自己肯定感や他者への理解を深め、人と人とがつながり、地域のコミュニティが醸成されている

**柱２**

**運動・スポーツの楽しみを**

**深める場の提供**

**柱３**

**運動・スポーツをささえる**

**人材の育成と活躍の場の創出**

・体育協会の活動支援

・スポーツ推進委員の活動支援

**施策３-１**

**運動・スポーツを**

**ささえる組織への支援**

**p.33**

**施策３-２**

**運動・スポーツを**

**ささえる人材の育成とマッチング**

**p.34**

・スポーツボランティアの育成・支援

・初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

・（仮称）ささえる人材のマッチング事業

【拡充】

・文化・読書・スポーツ活動協創推進事業

【拡充】

・他分野との連携事業【拡充】

・地域スポーツミーティングの展開【拡充】

**施策２-２**

**協働・協創による他分野**

**との連携のしくみづくり**

**p.31**

**施策２-１**

**身近な場所における**

**運動・スポーツの推進**

**p.29**

・学校施設の地域開放

・自宅や職場でできる運動・スポーツの推進

【新規】

・総合型地域クラブとの連携【拡充】

・運動・スポーツのできる公園の整備【拡充】

**施策１-１**

**子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・**

**スポーツを楽しむ**

**きっかけづくり　　p.24**

**施策１-３**

**運動・スポーツに関する情報の効果的な発信**

**p.27**

・障がい者向けスポーツ相談窓口の設置【新規】

・運動・スポーツの情報発信強化【拡充】

・足立親子野球教室

・SOMPO ボールゲームフェスタ

・足立区小学生なわとびチャレンジ

・成人向けプログラムの展開【拡充】

・パークで筋トレ・ウォーキング教室【拡充】

・オランダ連携プロジェクト

**施策１-２**

**だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実**

**p.26**

・スポーツカーニバル

・３Ｘ３．EXE PREMIER in 足立【新規】

・障がい者スポーツフェスティバルinあだち

**施　策 　　主な事業**

## **２　重点項目**

**（１）施策推進のための横断的視点**

アンケート調査等を通じて、文化・読書・スポーツ施策を推進する上での様々な課題が明らかになりましたが、その解決にあたり、「子どもの頃から」 「身近」 「つながり」という３分野共通の視点が見えてきました。

100年という長い人生において、子どもの頃から生涯に渡って文化・読書・スポーツに親しむためには、就学前から関心を高める取り組みを行っていく必要があります。

そして、関心を持った区民が実際に３分野の活動に親しむためには、身近な所に楽しめる機会や場が設けられていることが重要になります。

さらに、それぞれの活動を深め、広げるには、協働・協創の視点も踏まえ、多様な主体が当事者意識を持ってゆるやかにつながり、様々な形で連携していくことが鍵となります。そうすることで、新たな活動が生まれることが期待できるからです。

**（２）スポーツ分野における重点項目**

区民が運動・スポーツへの関心が薄い、あるいは運動・スポーツを実施していない要因として、運動・スポーツが楽しいものであると伝わっていないこと、運動・スポーツをやりたいと思っても、気軽にできる環境にないことが考えられます。

そのため本計画では、運動・スポーツを身近なところで気軽に親しむ区民を増やしていくために、以下のことを重点的に進めていきます。

ア　運動・スポーツが身近なものであると実感できる取り組み

運動・スポーツに取り組むことへのハードルを下げたり、これまで運動・スポーツに関心の薄かった区民に対して、運動・スポーツに触れるきっかけとなるような取り組みを行っていきます。

（事業例）

・　施策２－１　自宅や職場でできる運動・スポーツの推進 新規

・　施策２－２　文化・読書・スポーツ活動協創推進事業 拡充

イ　身近な場所で運動・スポーツを楽しめる取り組み

運動・スポーツできる場所への移動が負担にならないよう、身近な施設を運動・スポーツ活動のために提供したり、これまで特定のスポーツ施設で行っていたスポーツイベントを、人の集うにぎわいの場で行うなどの取り組みを進めます。

（事業例）

・　施策２－１　運動・スポーツのできる公園の整備 拡充

・　施策１－２　 in 足立 新規

## **３　施策と事業**

**施策の柱１　運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり**

区民が運動・スポーツに対して関心をもち、気軽に取り組むためには、その楽しさに「気づく」きっかけとなる機会を充実させていくことが重要です。

そのためスポーツ関係団体のほか、学校、民間団体・事業者等とも連携して、これまで運動・スポーツになじみの薄かった区民にも楽しんでもらえるような機会を数多く提供し、広く運動・スポーツの楽しさを伝えていきます。

### **施策１－１　子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむきっかけづくり**

年齢や生活環境、健康状態、障がいの有無等によって取り組みたいと思う、または取り組むことができる運動・スポーツは異なります。こうした状況をふまえ、ライフステージや個々の状況に応じた、きめ細かな施策・事業を展開します。

【主な事業】

足立親子野球教室 【スポーツ振興課】

幼児とその保護者を対象に、読売巨人軍指導のもと、親子で野球の体験ができるイベントです。技術の向上よりも、簡単なボール遊びを親子が一緒に楽しむことで、幼児の身体を動かすきっかけとなることや、親子のコミュニケーションの機会となることを重視し、取り組みを行っています。

SOMPO ボールゲームフェスタ 【スポーツ振興課】

小学生を対象に、簡単なボール遊びや、多種目の球技を体験できるイベントです。日本トップリーグ機構と連携した取り組みで、各種目の指導はトップアスリートが行います。トップアスリートとの交流や体験を通して、子どもの運動・スポーツへの関心喚起を図ります。

足立区小学生なわとびチャレンジ 【教育指導課】

区内の小学校を対象に、区内共通のルールを設け、一定の条件をクリアした児童や学校を表彰します。目標に向けて学校や学級単位で取り組むことで、児童の運動・スポーツへの意欲喚起と習慣化を図ります。

成人向けプログラムの展開　拡充 【スポーツ振興課】

区内のスポーツ施設では、子ども向けの運動・スポーツのプログラムだけでなく、成人向けにもダンスやエクササイズ教室など、様々なプログラムを実施しています。今後は、個人で気軽に参加できるプログラムや、初心者向けのプログラム、競技スポーツにとらわれず身体を動かすことの楽しみを実感できるプログラムを充実させ、ビジネスパーソンや運動・スポーツに関心の薄い区民の運動・スポーツ参画を図ります。

パークで筋トレ・ウォーキング教室　拡充 【スポーツ振興課】

主に60歳以上を対象に、公園や広場などを利用して、体操や軽運動、ウォーキングなどの健康体力づくりができる事業です。身近な場所で運動できる機会として、パークで筋トレについては今後も空白地帯が生じないよう実施会場を拡大するとともに、各会場における指導員間のレベルの平準化に取り組みます。また、ウォーキング教室では歩き方の解説から始めるなど、初心者向けの教室を充実させることで、新規参加者の獲得に力を入れて取り組んでいきます。

オランダ連携プロジェクト

【経営戦略推進担当課／スポーツ振興課／教育指導課】

共生社会の先進国であるオランダ王国と連携し、トップアスリートとの交流を通して、小・中学生や地域のスポーツ関係団体などに対して障がいの理解促進を図るとともに、パラスポーツをツールとして障がい者の社会参加を進めていきます。2020年のプロジェクト終了後も、共生社会の実現を目指して取り組みを継続していきます。

### **施策１－２　だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実**

ライフステージ等に応じた運動・スポーツを楽しむ機会の充実だけでなく、世代や障がいの有無を越えて、だれもがともに同じ空間で運動・スポーツに親しみ、楽しみや喜びを共有できる機会を充実させていくことは、人と人との結びつきや地域の絆を形成していくために重要です。

このような視点から、運動・スポーツを「する」だけでなく、「みる」機会の充実を図り、運動・スポーツを通じて多様な区民が交流する共生社会の実現へとつなげていきます。

【主な事業】

スポーツカーニバル 【スポーツ振興課／体育協会／スポーツ推進委員】

毎年スポーツの日に、地域体育館等の身近な会場で、普段体験したことのない、様々な運動・スポーツにチャレンジできる事業です。「きっと見つかるあなたのスポーツ」をテーマに、運動・スポーツの楽しさを伝え、運動意欲の向上を図ります。

in足立　新規 【スポーツ振興課】

東京2020オリンピック大会の正式種目「（３人制バスケットボール）」のトップアスリートによる競技を、身近に観戦できる機会を創出します。体育館等の施設に人を集めるのでなく、人の集うにぎわいの場に出向いて事業を行う新しいスタイルの「みるスポーツ」として、より多くの区民がスポーツの魅力、興奮を共有し、楽しんでもらうことを目的とし実施します。

障がい者スポーツフェスティバルinあだち 【スポーツ振興課】

日頃触れる機会の少ない、様々な障がい者スポーツを体験できる事業です。障がい者が運動・スポーツに触れるきっかけをつくるだけでなく、障がいのない人が障がい者スポーツの理解を深め、ともに汗を流すことで心のバリアフリー化を進めます。

### **施策１－３　運動・スポーツに関する情報の効果的な発信**

施設情報や利用のしくみ、講座やイベント等の情報、総合型地域クラブや競技団体等の運動・スポーツに関する情報を、区民が必要とするときに入手できるよう、よりわかりやすく発信していきます。

また、運動・スポーツを生活の中で身近に感じることができるようにその意義や効果を、より多くの区民に周知していく意識啓発にも取り組んでいきます。

このほか、ＩＣＴの活用など、新たな情報発信に取り組むとともに、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を、一体的に区民に届けていきます。

【主な事業】

障がい者向けスポーツ相談窓口の設置　新規

【障がい福祉課／スポーツ振興課】

障がい者や疾病等により運動・スポーツ活動に支援を必要とする区民が、気軽に運動・スポーツに取り組むことができるよう、専用の相談窓口を設置します。相談支援のみならず、関係機関との連絡調整や障がい者スポーツの普及啓発に取り組みます。

運動・スポーツの情報発信強化　拡充 【スポーツ振興課】

運動・スポーツに関心がない区民や、関心があっても運動・スポーツに取り組んでいない区民の背中を押せるような、魅力的な事業を企画するだけでなく、そうした情報が区民に届くよう、発信の強化に取り組みます。

興味をひくチラシやポスターを作成するだけでなく、新たな配布先・展示先の開拓、ホームページやＳＮＳなどのメディアの活用など、より多くの区民が運動・スポーツに取り組むことができるよう情報発信を充実させていきます。

**成果指標一覧**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策１－１　子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむ**  **きっかけづくり** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策１－２　だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策１－３　運動・スポーツに関する情報の効果的な発信** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

**施策の柱２　運動・スポーツの楽しみを深める場の提供**

運動・スポーツには単に楽しいということだけでなく、心身の健康をもたらしたり、他者との交流を通じてより豊かな時を過ごすという効果があります。

そのためには運動・スポーツの楽しみを「深め」ていくことが必要であり、自主的、継続的に取り組めるよう、身近なところに運動・スポーツの場があることが重要です。

スポーツ施設や公園などの整備といったハード面ばかりでなく、読書・文化芸術分野や健康づくり、福祉分野など、これまで関連の薄かった分野の推進主体との連携で、ソフト面からも運動・スポーツを楽しむ場を充実させ、健康的な生活を送る区民を増やしていきます。

### **施策２－１　身近な場所における運動・スポーツの推進**

稼働率の高いスポーツ関連施設を新規利用者にも提供できるよう利用調整などの環境改善を行うだけでなく、自宅や職場など生活に身近な場所で気軽にできる運動・スポーツを推進していきます。また、地域での活動やコミュニティの拠点となる学校、区施設、総合型地域クラブと連携し、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりに取り組んでいきます。

【主な事業】

学校施設の地域開放 【スポーツ振興課】

区内小・中学校の校庭や体育館などを、運動・スポーツや文化芸術などの活動団体に提供しています。施設の利用率は非常に高い状況にありますが、新たに運動・スポーツしたい区民が身近に活動できる場所とするため、今後も区が利用調整を図っていきます。

自宅や職場でできる運動・スポーツの推進　新規 　【スポーツ振興課】

運動・スポーツを実施する手間や時間が負担になっている区民にも運動・スポーツに取り組むことができるよう、自宅や職場でのちょっとした空き時間や通勤中にできるストレッチやトレーニングの紹介など、日常生活の中で気軽に取り組める運動・スポーツを推進します。気軽にできることと合わせて、健康や美容などの具体的な効果についても示していくことで、運動・スポーツに対するハードルを下げ、目的をもって運動・スポーツに取り組む区民を増やしていきます。

運動・スポーツのできる公園の整備　拡充

【パークイノベーション担当課】

公園が多い足立区の強みを活かし、一定のエリアごとに役割や機能を割り振り、個々の公園の性格や特色の違いを明確化した公園整備を行っています。運動・スポーツできる公園として、ウォーキングコースの改修、ボール遊びのできる設備、健康器具の設置などに取り組み、誰もが気軽に利用できるような環境を整えていきます。

総合型地域クラブとの連携　拡充 【スポーツ振興課】

「いつでも、どこでも、だれもが、いつまでも」を合言葉に、区民が身近に様々な運動・スポーツや文化活動を楽しめる場として、区内９つのクラブが活発に活動しています。クラブとの連携を通して、区民の健康・体力増進を図るだけでなく、絆づくりやコミュニティの活性化にも取り組んでいきます。

### **施策２－２　協働・協創による他分野との連携のしくみづくり**

運動・スポーツだけでなく文化活動や体験・学習を行うことができる複合施設であるという地域学習センターが区内に13館あるという強みを生かし、文化・読書分野と連携し、運動・スポーツへの関心喚起、活動の実施につながる様々な取り組みを推進していきます。

また、庁内の他部署、庁外の団体等など、他分野との連携を積極的に推進していきます。

【主な事業】

文化・読書・スポーツ活動協創推進事業　拡充

【地域文化課／スポーツ振興課／中央図書館】

より多くの区民が文化・読書・スポーツの楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きることができるよう、各分野相互の連携事業を実施します。例えば、図書館利用者に対し、運動・スポーツが始められるような働きかけを行う事業を展開します。

他分野との連携事業　拡充 【スポーツ振興課】

健康づくりや福祉分野など、これまで関連の薄かった分野の推進主体と連携し、より多くの区民へアプローチしていきます。例えば、庁内においては、衛生部の推進する企業への健康経営啓発事業と連携し、職場で気軽に行える軽体操など運動・スポーツの普及啓発を行うことで、企業の健康経営に貢献します。

地域スポーツミーティングの展開　拡充

【スポーツ振興課／体育協会／スポーツ推進委員／総合型地域クラブなど】

区内6地区において、地域の運動・スポーツをささえる区民推進組織を中心に、地域における運動・スポーツに関する課題の解決や、イベント等の事業の方向性を定めるため、情報共有・意見交換を行う会議を定期的に開催します。区民が主体的に考える機会と捉え、地域において運動・スポーツを推進する「協創」のプラットフォームとなるよう、区もコーディネーター役を担い、支援します。

**成果指標一覧**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策２－１　身近な場所における運動・スポーツの推進** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策２－２　協働・協創による他分野との連携のしくみづくり** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

**施策の柱３　運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出**

区民が運動・スポーツを通して地域でつながりをもち、運動・スポーツの楽しさをより多くの区民へと「広げ」ていくためには、場の整備のみならず、運動・スポーツをささえる活動に携わる人・組織の存在が重要です。

民間団体・事業者等を巻き込んで運動・スポーツをささえる人材・組織を育成し、活動・活躍の場を創出することで、地域の中で交流する区民を増やしていきます。

### **施策３－１　運動・スポーツをささえる組織への支援**

体育協会やスポーツ推進委員会など、運動・スポーツをささえる組織を支援し、運営基盤を強化していきます。また、地域において組織として期待される役割を整理することで、効果的な運動・スポーツの推進に寄与します。

【主な事業】

体育協会の活動支援 【スポーツ振興課】

体育協会は区民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活の形成に寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献することを目的とし、区民の運動・スポーツの振興、競技力向上、指導者養成、加盟団体の育成支援などに取り組んでいます。

区は、財産の貸付や経費の助成、職員の派遣などを通して体育協会の活動に必要な支援を行います。

スポーツ推進委員の活動支援 【スポーツ振興課】

スポーツ推進委員は地域における運動・スポーツの推進役、コーディネーターとして、小学校体力状況調査の指導、学校施設管理運営委員会の運営、各種運動・スポーツイベントの運営サポートなどの活動を行っています。

区は委員の委嘱、研修・会議等の調整、広報紙の作成などを通して、スポーツ推進委員が地域において、円滑に活動することができるよう、支援します。

### **施策３－２　運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング**

運動・スポーツを通して人と人とのつながりや、地域のコミュニティを醸成していくために、学校の運動部活動や障がい者スポーツといった専門的な技術や知識をもつ人材やボランティアの育成など、区民の運動・スポーツをささえていく多様な人材の育成支援に取り組んでいきます。

また、地域のニーズを把握し、こうした運動・スポーツをささえる人材が、適切な場で活躍できるようマッチングするしくみを整えていきます。

【主な事業】

スポーツボランティアの育成・支援 【体育協会】

運動・スポーツをささえる人材として、地域において運動・スポーツにかかわる事業の運営支援や、競技スポーツやスポーツ少年団の技術指導を行うスポーツボランティアを育成します。競技スポーツのみならず広く区民に親しめる運動・スポーツの普及も担っていけるよう、体育協会とともに区も公認の資格制度の整備、資格取得のための講座の充実、資格取得後の活躍の場づくりを進めていきます。

初級障がい者スポーツ指導員養成講習会 【スポーツ振興課】

日本障がい者スポーツ協会公認の制度に基づき、障がい者スポーツの楽しさを伝えるために必要な、基礎知識や技術を習得できる講習会を、区内において開催します。受講終了者は資格取得のほか、地域において障がい者の運動・スポーツをささえる人材として区の人材バンクに登録され、イベント等でボランティアとしても活動します。

これまではスポーツ指導者を中心として受講者を募っていましたが、障がい者が運動・スポーツをすることの意義や効果を普及するためにも、今後は障がい者施設や医療機関等への受講勧奨を行なっていきます。

（仮称）ささえる人材のマッチング事業　拡充 【生涯学習振興公社】

スポーツ指導者やボランティアなど、地域において運動・スポーツをささえる人材を、学校や総合型地域クラブ、高齢者の介護予防事業などに派遣・紹介します。地域との結び付きを支援することで、団体・組織における人材不足を補うとともに、運動・スポーツをささえる活動に携わりたいと考える人材が、地域においていきいきと活躍できる場や機会を提供します。

**成果指標一覧**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策３－１　運動・スポーツをささえる組織への支援** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策３－２　運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

1. ※ リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット 『ライフ・シフト　100年時代の人生戦略』、東洋経済新報社、2016、1頁。 [↑](#footnote-ref-2)
2. ※ 協働・協創：協働は、地域課題の解決に向けて、主に行政が目的や手段を設定し、行政からの呼びかけや依頼に応じて、区民が参加・活動する仕組み。一方の協創は、協働では行き届かなかった地域課題の解決や新たな魅力の創出に区民が取り組んでいく仕組みであり、足立区は、多様な主体が自発的に行動しゆるやかにつながるよう、活動を妨げない範囲で活動状況を把握し、必要に応じて支援などを行う。 [↑](#footnote-ref-3)
3. ※ 小・中学生アンケート調査：区立小中学校に在籍している小学５年生、中学１年生に対して実施し、各541人、550人の子どもとその保護者が回答。 [↑](#footnote-ref-4)
4. ※ 一般向けアンケート調査：16歳以上の区民8,000人に対して郵送調査を行い、2,842人（35.5％）が回答。 [↑](#footnote-ref-5)
5. ※ ただし、足立区の調査と東京都・全国の調査では尋ね方や対象も異なることから、比較においては留意が必要です。 [↑](#footnote-ref-6)
6. ※ 平成29年度スポーツ庁委託事業「地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」報告書 [↑](#footnote-ref-7)
7. ※ 「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」「障がい者スポーツのボランティア」「スポーツ教室などの運営ボランティア」「運動・スポーツの指導者のボランティア」のいずれか１つ以上に回答した人の割合。 [↑](#footnote-ref-8)